KOCHO だより ㊾

令和４年(2022 年)10 月 28 日

山口調理製菓専門学校長　須内章雅
Sunouchi Akimasa

○ 面接

令和５年度入学予定者の第１回入学選考会を 24 日に行いました。欠席者もなく予定通り終了しました。まだ定員には余裕がありますので、現在検討中の方も 2 回目以降に出願していただければと思います。選考会の内容などについてこの紙面での詳しい紹介はしませんが、面接はあります。ということで一般的な「面接」のことについて今回は記述してみようと思います。

人生においておそらく誰もが１回は経験するものではないでしょうか？私の初体験は 15 歳の時、私立高等学校の入学試験におけるものでした。個人面談であり、私一人が面接会場の扉を開けて入室しました。今覚えていることは二つだけです。一つ目は眩しさです。面接官が窓際に 2 名か 3 名並び座っておられました。その背後から日の光が差していました。何を聞かれ、何をどう答えたかということは全く記憶に残っていません。しかし一つのやりとりだけは覚えています。面接官が書類を見て、「あなたは柔道の初段を持っているのですね。身体が小さいのにすごいですね。」と言われました。「すごいですね。」のことばには嬉しく思いましたが、「身体が小さい～」には「！？」と思ってしまいました。その後、いろいろな場での面接を経験しました。大きい小さいとか内容もさまざまですが、7 回くらいはあったでしょうか。60 歳を過ぎてからもありましたね。社会生活を送っていけば節目のどこかで必ず経験していくものなのでしょう。新しい仕事への入口というような感じです。

「面接」で検索して見つけた写真です

面接といえるようなものにはどんなものがあるのだろうかと調べてみたくなりました。個別やグループ、団体ディスカッションなど形態はいろいろ違うと思います。入学試験におけるもの、入社（採用）試験、昇進試験、オーディションなどがまず思い浮かびました。

他者が自分のことを評価するという意味では発表や競技も面接に近い存在でしょうか。フィギュアスケートや体操、アーティスティックスイミングの審判などでは技術面や芸術面の採点がなされます。100m 走などは数値という物理的なものだけが判断基準です。走るフォームの美しさなどは特に競技上の判断はされません。

本校の授業で行う実技試験も会話はほとんどなくても、自分の技術表現を評価者に判断されるという点では面接の一つと言えるかもしれません。受ける方はやはり緊張するようです。緊張することはよいことだと思います。「しっかり頑張ろう。」という気持ちがあるからこそ緊張します。緊張感がないと調子に乗りすぎて失言をしてしまうこともあります。緊張は誠実な気持ちの表れであると思います。これから面接にむかおうとする人たちには前向きにとらえてほしいと思います。

就職活動をしているであろうと分かる人を街中や駅で見かけることがあります。なぜ分かるかといえば、皆ほとんどリクルートスーツ姿だからですね。みんなが同じような姿をしていることにはいろいろな意見があると思いますが、清潔感はありますね。違う服装にすると目立ちすぎるという意識が働いているかもしれません。似たような服装だと個性が発揮されないという意見があるかもしれませんが、面接をする側からすれば、むしろ個性がよく感じられる（見ることができる）と私は思います。

○ 自校自賛

今回のメニュー ： 帆立貝の冷製ナージュ、コンソメスーププロフィトロール、豚フィレ肉のステーキ粒マスタード、テラミス … 蕎麦打ち

調理中の写真です